

1人1台のノート PC で Stage 4 を達成 教育のビジョン達成する整備実現

東北学院中学校・高等学校(宮城県)
教諭 新田 晴之氏

【1人1台のノート PC 整備と活用】

生徒に1人1台の Chromebook を導入している東北学院中学校・高等学校は、クラウドソフトを活用、総合的な学習の時間で、調べ・共有してまとめた内容を、発表・意見交換している。各教科の授業では、Web 上で小テストや反転授業も実施。新田氏は大学入試改革に対応した ICT 活用が求められると語る。



Stage 4 から はじめる

新田教諭は、東北学院中学校・高等学校の ICT 環境整備について報告した。

まず文部科学省「2020 年代に向けた教育の情報化に関する懇談会最終まとめ」における普通教室 ICT 環境整備のステップ「ステージ 1～4」までの図を示し「多くの学校はステージ 1 も到達できていない。逆に本校は、ステージ 4 の達成から始めた」と語る。

ステージ 4 とは、アクティブ・ラーニングを実現する「1人1台の学習者用端末活用環境+電子黒板、無線 LAN、個人フォルダの整備」である。「ステップを上げながら整備を進めるほうがさらに難しい」と考えたのが大きな理由だ。

さらに「アクティブ・ラーニング実現のビジョン

と校務支援システムがなければステージ 2 どころか 1 の達成も難しい」と、総合的な体制整備の重要性を指摘した。

教員は Windows

生徒は Chromebook

同校では教員用端末は Windows だが、生徒には 1人1台の Chromebook を保護者負担により導入。学校活用、家庭活用を視野に「特定の OS やアプリに頼らない」ことを目指した。保険を入れて 5 万円程度の負担だが、その有用性や活用について説明するのは学級担任であり、きちんと説明できる状況を作らなければならないと語る。

活用しているのは Google のクラウド「G Suite」と授業支援システム「Classi」。総合的な学習の時間では Google スライドを活用して「調べる・共有